

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A項

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B項

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C項 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

\*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「…とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

\*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたものの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。#

大問一

問(一)

基準 配点… 1点×5

■模範解答 ※解答例通り(漢字書き取り問題)

- (1) 普通 (2) 示唆 (3) 便宜 (4) 繁栄 (5) 倒錯

問(二)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 14点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

人間の存在と無関係に、

B

時間は客観的に宇宙にその始まりから内在し、

C

その終わりまで存在するものだという認識があったから。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…六十字以内 二十九字以下のもは全体不可(0点)

■要素A 人間の存在と無関係に…6点

- ・「宇宙と人間の関係」よりも前に「宇宙と時間の関係」があることから、時間は人間と関係がないことを説明していないものは、要素A加点数なし
- ・同意例…時間は人間に先立って
- ・不可例…時間は人間が主観的に定めたものではなく

■要素B 時間は客観的に宇宙にその始まりから内在し…4点

- ・時間が始まりから宇宙に内在していることの説明がないものは、要素B加点数なし
- ・同意例…時間は宇宙の歴史と共に始まり
- ・同意例…時間は宇宙に客観的に存在し

■要素C その終わりまで存在するものだという認識があったから…4点

- ・宇宙が存在する限り、時間も存在することの説明がないものは、要素C加点数なし
- ・不可例…時間が宇宙と共に終わると認識しているから
- ・不可例…宇宙は人類が滅亡しても存在するだろうから

問(三)

形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／内容説明の結び「くから」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

**基準** 配点… 12点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

時間は人間と無関係に存在するものではなく、

B

人間が運動の比較のために便宜上使用する概念だということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…五十字以内 二十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 時間は人間と無関係に存在するものではなく…6点

- ・時間がア・プリアリ(先験的)にあるのではないことの説明がないものは、要素A加点なし
- ・同意例…時間は先験的に(Ⅱア・プリアリに)存在するのではなく
- ・不可例…時間は観測者から独立した存在ではなく
- ・不可例…時間は存在するのではなく

■要素B 人間が運動の比較のために便宜上使用する概念だということ…6点

- ・時間とは、運動の比較に用いるために人間が作った概念であることの説明がないものは、要素B加点なし
- ・同意例…人間が運動を記述するために作り出した(創り出した)概念だということ

問(四)

形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／内容説明の結び「くから」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

**基準** 配点… 15点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

地球上の一日の周期に同期するリズムを生物がもつことを

B

(それを)指して「生物時計」と表現するのは、

C

人間が時間という概念をもつことに基づいた比喩表現だということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…七十五字以内 三十七字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 地球上の一日の周期に同期するリズムを生物がもつことを…5点

・生物が一日の周期に同期するリズムをもっていることの説明がないものは、要素A加點なし

・同意例…地球の一日の周期に同期する概日リズムを生物がもつことを

・同意例…地球の一日の周期に同期するリズムを生物がもつことは、生物が「時間」をもつように捉えられるが

■要素B (それを)指して「生物時計」と表現するのは…5点

・要素Aのリズムを、「『生物時計』と表現する」ことの説明がないものは、要素B加點なし

■要素C 人間が時間という概念をもつことに基づいた比喻表現だということ…5点

・人間が時間という「概念」をもつが故のことであることの説明がないものは、要素C加點なし

## 問五

形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／内容説明の結び「〜こと・〜変化」で終わり、「〜と捉えている」がなくても可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 14点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

生物が、環境や自らの状態について、

B

持続や変動を知覚し、了解もしくは想起する感覚や意識の不可逆的な変化だと捉えている。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…六十字以内 二十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 生物が、環境や自らの状態について…7点

・生物の環境、状態についてのものであることの説明がないものは、要素A加點なし

■要素B 持続や変動を知覚し、了解もしくは想起する感覚や意識の不可逆的な変化だと捉えている…7点

・了解、想起する感覚、意識の不可逆的な変化であることの説明がないものは、要素B加點なし

## 大問二

### 問(一)

**基準** 配点… 2点×3

■模範解答 ※解答例通り(辞書の意味に当てはまればよい)

- (1) 古い考えにとられているさま。  
昔の考えを頑固に守って改めないさま。等
- (2) 少しずつ。  
ゆっくりと。  
だんだん。  
ゆるやかに。等
- (3) 見物ついでに。  
見物をかねて  
見物かたがた。等

### 問(二)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素B参照
- ・句点の扱い…1点減点

**基準** 配点… 8点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

人々の戸外での足音が聞こえる

B

一階の部屋。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…二十字以内 九字以下のもは全体不可(0点)

■要素A 人々の戸外での足音が聞こえる…4点

- ・戸外から聞こえる人々の足音であることを説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 一階の部屋…4点

- ・一階であることを説明していないものは、要素A加点数なし

### 問(三)

#### ■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／「くもどかしさを感じさせる眺め」のように「眺め」で結ぶ形も可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 18点

#### ■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

快い眺めではあるが、

B

街路の音が伝わらず、

自らを現実から切り離され抽象化されたもののように感じさせ、

D

眺めとの距離感と手応えのなさをもどかしく思っている。

#### ■採点方法…各要素単独採点

■字数…七十五字以内 三十七字以下のものは全体不可(0点)

#### ■要素A 快い眺めではあるが…4点

- ・快さも感じていることを説明していないものは、要素A加点数なし

#### ■要素B 街路の音が伝わらず…4点

- ・街路からの人々の足音が聞こえないことを説明していないものは、要素B加点数なし
- ・同意例…街路からの人々の足音が聞こえず
- ・同意例…街路を歩き交う人々の足音との接触が消え

#### ■要素C 自らを現実から切り離され抽象化されたもののように感じさせ…5点

- ・自分自身が抽象化されたものになっているという感覚をもっていることを説明していないものは、要素C加点数なし

#### ■要素D 眺めとの距離感と手応えのなさをもどかしく思っている…5点

- ・眺めとの距離感にもどかしさを感じていることを説明していないものは、要素D加点数なし

### 問(四)

#### ■形式上の不備

- ・文末表現…要素B参照
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 12点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

人々が街中で何気なく送っている日常生活の気配を

B

そのまま感じさせる響き。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…三十五字以内 十七字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 人々が街中で何気なく送っている日常生活の気配を…6点

・街中における人々の日常生活の気配であることを説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B そのまま感じさせる響き…6点

・「等身大」の意味を説明していないものは、要素B加点数なし

・同意例…じかに感じさせる響き

・同意例…直接的に感じさせる響き

## 問(五)

■形式上の不備

・文末表現…要素C参照

・句点の扱い…1点減点

**基準 配点… 16点**

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

人間と世界との関係のもつとも原初的な形態そのものであり、

B

人間の本源的な在り様を現し、

C

自らの生を強く感じさせるもの。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…六十字以内 二十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 人間と世界との関係のもつとも原初的な形態そのものであり…5点

・足音が人間と世界との関係の原初的な形態であることを説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 人間の本源的な在り様を現し…5点

・足音が人間の本源的な在り様を現すものであることを説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C 自らの生を強く感じさせるもの：6点

- ・ 足音から生を感じていることを説明していないものは、要素C加点数なし
- ・ 不可例：死に向かう人間が持っているもの



問(一) 傍線の箇所(1)の語句の意味を文脈に即して記せ。【4点】

〔該当傍線部〕 A2 思ひかけぬ B2 ありがたきこと

〔模範解答〕 B2 めったに起こりえない A2 不思議なこと。

〔ポイント〕

A【2点】思ひかけぬ ↓ 不思議な

※Bが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※「理解できない」などもよい。

※「思いがけない・予期しない」等は【1点】。

B【2点】ありがたきこと ↓ めったに起こりえない ↓ こと。

※「めったにない・珍しい」等でもよい。

※「めったにない・珍しい」がない「すばらしい・縁起がよい・優れている」等は【1点】。「ありがたい」のままは×。

問(一) 傍線の箇所(2)の語句の意味を文脈に即して記せ。【4点】

〔該当傍線部〕 A1 ことのほかに B3 悩ませ給ひけれ

〔模範解答〕 B3 難産で、A1 たいそう(B) 苦しんだ。

〔ポイント〕

A【1点】ことのほかに ↓ たいそう

※Bが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※「非常に・格別に・とりわけ」などでもよい。「ことのほか」のままは×。

B【3点】悩ませ給ひけれ ↓ 難産で、 ↓ 苦しんだ。

※「中宮が」という主体の有無は不問。

※「難産(出産)で苦しんだ」の意があれば【3点】。

※「出産」の意がない「妊娠で苦しんだ」は【2点】。

※「出産」の意も「妊娠」の意もない「体調不良(病気)で苦しんだ・病気になった」は【1点】。

※「体調不良・病気」の意もない「苦しんだ・悩んだ」等は×。

※「苦しんだ」は「苦労した・大変だった」等でもよい。「悩んだ」となっている場合は、右の基準で得た得点からマイナス【1点】。

問(二) 傍線の箇所(A)「:」とは、だれのどのような行動なのか、どうしてそのような行動をとったのかが分かるように、八十字以内で答えよ。【10点】

〔該当傍線部〕 御簾を押しはりたりける

〔模範解答〕

A2 清少納言の、B3 雪の朝に「香炉峰はどうか」と言った院の言葉がC2 白居易の詩を踏まえていると理解して、D3 「香炉峰の雪は簾を撥げて看る」という詩句通りに簾を押し上げた行動。(79字)

「ポイント」

A 【2点】清少納言の、

※BもCもDも0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。  
※書かれている位置は最初でなくてもよい。

B 【3点】雪の朝に「香炉峰はどうか」と言った院の言葉が

※CやDができていなくても、『香炉峰はどうか』という院の言葉に応じた行動「のようにまとまっていれば得点できる。

※「雪の朝に」はなくてもよい。

※「香炉峰」は「香炉峰の雪・香炉峰の様子」等でもよい。

※「院」は「天皇・一条天皇・帝・上皇」等でもよい。

※会話部として書かれていない「香炉峰の雪の様子を尋ねた院に対して」等でもよい。

※「香炉峰はどうか」と言った「がない」、「院の言葉に対して」等は【1点】。

※「院の」がない、『香炉峰はどうか』という言葉に対して「等は【1点】」。

C 【2点】白居易の詩を踏まえていると理解して、

※BやDができていなくても、「白居易の詩(言葉)どおりにした行動」のようにまとまっていれば得点できる。

※「白居易の詩(言葉)どおりにした」の意があればよい。

※「白居易」は「白楽天」でもよい。

D 【3点】香炉峰の雪は簾を撥げて見る」という詩句通りに簾を押し上げた行動。

※BやCができていなくても、『香炉峰の雪は簾を撥げて見る』のとおりにした行動「のようにまとまっていれば得点できる。

※「香炉峰の雪は簾を撥げて見る」のとおりにした「の意があればよい。

※「撥げて」は「上げて」、「見る」は「見る」でもよい。

※「雪」がない「香炉峰は簾を撥げて見る」や、「香炉峰」がない「雪は簾を撥げて見る」は【1点】。

※「撥げて見る・上げて見る」がない場合は×。

問(三) 傍線の箇所(イ)「…」について、匡衡がこのように考えたのはなぜか、六十字以内で説明せよ。 【8点】

「該当傍線部」 これ、めでたき御吉事なり

「模範解答」

A 3犬の字は、同様に犬の字に点を加えた天や太につながり、B 3犬が子を生んだことは、C 2中宮が天子となる太子を生む予兆だと考えたから。(60字)

「ポイント」

A 【3点】犬の字は、同様に犬の字に点を加えた天や太につながり、

※Cが0点の場合は得点できない。

ただし、誤字等で0点になっている場合や、Cが「皇子」となっていて0点になっている場合は得点できる。  
※「犬の字は天や太につながる」の意があればよい。「犬の字は点を動かせば天や太になる・犬の字は天や太に似ている」等でもよい。

B【3点】犬が子を生んだことは、

※Cが0点の場合は得点できない。

ただし、誤字等で0点になっている場合や、Cが「皇子」となっていて0点になっている場合は得点できる。  
※「天や太に子をつけると」という内容でもよい。

C【2点】中宮が天子となる太子を生む予兆だと考えたから。

※「中宮が」はなくてもよい。

※「天子(天皇・帝)」か「太子(皇太子)」の片方しかない場合は【1点】。

※「天子(天皇・帝)」も「太子(皇太子)」もなく、「皇子を生む・皇子が生まれる」となっている場合は×だが、AやBは得点できる。

問(四) 傍線の箇所(ウ)「…」を口語訳せよ。【7点】

「該当傍線部」 A 1 匡衡、 B 3 風月の才に富めるのみならず、 C 3 かかる心ばせども深かりけり

「模範解答」 A 1 匡衡は、 B 3 風流なことに関する才能に恵まれていただけではなく、 C 3 このような深い心づかいもしたのだった。

「ポイント」

A【1点】匡衡、 ← 匡衡は、

※BもCも0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

B【3点】風月の才に富めるのみならず、 ↓ 風流なことに関する才能に恵まれていただけではなく、

※「風流なこと」は「趣のあること」等、または、「漢詩」の意を含む「漢詩・詩歌・詩文・詩」等でもよい。

「和歌・歌」しかない場合は【2点】。

「詩」の意がない「漢文」しかない場合は【1点】。

※「才能」は「才」のままでもよい。

※「恵まれている」は「すばらしい・富んでいる」等でもよい。

C【3点】かかる心ばせども深かりけり ↓ このような深い心づかいもしたのだった。

※「このような」の内容は「気転を利かせてうまいことをいう・高貴な方に気を遣う」といったものだが、具体的にないなくてよい。

※「心づかい」は「気配り・配慮・心遣い・気転」、「心がけ・心得・心構え・たしなみ」、「才知・才覚・思慮・分別」等でもよい。

※「深い」は、傍線部の語順どおり「深かった」となっているもよい。

「このような心づかい」ができているが、「深い」の意がない場合は【2点】。

※文末は、過去「くた」以外に、気づき「くたのだった」・詠嘆「くたのだなあ」・伝聞過去「くたという・くたそうだ」等でもよい。

問(五) 傍線の箇所(エ)「…」について、有国がこのように判断したのはなぜか、三十五字以内で説明せよ。  
【7点】

〔該当傍線部〕 御産はすでに成り候ひぬるなり

〔模範解答〕 A 6子をさえぎると書く障子が広く開かれ、 B 1出産に支障がないと考えたため。(33字)

〔ポイント〕

A 【6点】子をさえぎると書く障子が広く開かれ、

※「障子は子をさえぎると書く」の意と、「障子が開かれた」の意があればよい。

※「さえぎる」は「障る(さわる)・差し障る・障害となる・つかえる」等でもよい。

「障ふ」のままになっている場合は【2点】。

※「広く」はなくてもよい。「障子が開いた」の意が読み取ればよい。

※「障子」を開けた主体「道長」の有無は不問。

B 【1点】出産に支障がないと考えたため。

※Aが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※「障子が開いたので、出産が済む」という因果関係が読み取ればよい。

大問四

問一

各3点×2＝計6点

- (1) こいねがわくは／こひねがはくは  
(2) みずから／みづから

▼現代仮名づかいでも、歴史的仮名づかいでも、どちらも可。

▼(1)「こいねがはくは」「こひねがわくは」は不可。

問二

各5点×2＝計10点

(a) そのいまだあつまらざる ／ にじょうじて

●以下のように、二分割して採点します。

- ① そのいまだあつまらざる 3点  
② にじょうじて 2点

▼①・②の順序になっていない場合は全体として加点なし。

▼読点「、」の有無は不問。

▼①は解答通り。

▼②は「じょうじて」も可。

(b) いずくんぞよく ／ ふかくいらんや

●以下のように、二分割して採点します。

- ① いずくんぞよく 3点  
② ふかくいらんや 2点

▼①・②の順序になっていない場合は全体として加点なし。

▼句点「。」の有無は不問。

▼①は「いづくんぞよく」も可。

▼②は「ふかくいらん」も可。

問三

各5点×2＝計10点

ア 必ずしも勝たないとは限らない。

【別解】勝つこともある／勝てるかもしれない。

※部分点はなし。

※句形「未必不」を踏まえて、「必ずしも勝たないとは限らない」「必ずしも勝てないわけではない」など、勝てないわけではないことを表現してあれば可。「必ずしも」については「必ず」でもよいし、なくともよい。

▼「勝てないはずがない」「必ず勝つ」などは不可。

▼ただし「未」を「まだ」と訳している場合は2点減。

※二重否定を肯定文に言い換えて、「勝つこともある」「勝てるかもしれない」など、勝つ可能性があると表現してあっても可。

エ そうならないわけにはいかない。

【別解】大胆になるしかないのだ。

※部分点はなし。

※二重否定「不得不」を踏まえて、「そうならないわけにはいかない」「そうならずにはいられない」などと訳してあれば可。また「然」の内容を示して「大胆にならないわけにはいかない」「大胆にならずにいられない」などと訳してあっても可。

▼「そうならないことはない」「そうならないわけではない」などは不可。

※言い換えて、「そうなるしかない」「そうなるほかない」などと訳してあれば可。また「然」の内容を示して「大胆になるしかない」「大胆になるほかない」などと訳してあっても可。

▼「そうなるはずである」「大胆になるものだ」などは不可。

問四

6点

中央を攻撃して金軍の戦列を分断したり、／背後から奇襲したりすること。

●以下のように、三分割して採点します。

- ① 中央を攻撃して金軍の戦列を分断する 2点
- ② 金軍を背後から奇襲する 2点
- ③ ……たり―たり。 2点

※①・②・③の順序は不問。

※①は金軍の中央を攻撃して分断することを表現できていれば加点。「腰」∥敵軍の中央、「截つ」∥分断する、がわかっていればよい。

※②は金軍を背後から攻撃することを表現できていれば加点。「尾」∥敵軍の背後、「襲ふ」∥攻撃する、がわかっていればよい

▼「奇襲」に触れていなくてもよい。

▼①か②のどちらかで「金軍」「敵軍」「侵略軍」に触れる必要がある。たとえば、「中央を攻撃して戦列を分断したり背後から奇襲攻撃したりして金軍を破るということ」という形でもよい。

※③の加点条件は「敵軍の中央を攻撃して戦列を分断したり背後から奇襲したり」「ある将軍は中央を攻撃して戦列を分断し、ある将軍は背後から奇襲する」「場合によっては中央を攻撃して戦列を分断し、場合によっては背後から奇襲する」のように、「或いは…」を踏まえて訳してあること。たとえば、「金軍の中央を攻撃して戦列を分断し、背後から奇襲すること」「③で加点なし(①・②で計4点)」。

金軍の侵攻に対して、皇帝に親征を願ひ、／近衛兵を最前線に送る進言をしたから。

● 以下のように、二分割して採点します。

- ① 金軍の侵攻に対して、皇帝に親征を願ひ、 4点
- ② 近衛兵を最前線に送る進言をしたから 4点

※①・②の順序は不問。

※①は金軍の侵攻に対して皇帝に親征を願った、敵軍を皇帝自ら迎撃することを願ったことに触れていれば加点。  
▼「金軍の侵攻に対して（皇帝が親征する）」「敵軍を（皇帝自ら迎撃する）」に触れていない場合（「皇帝の親征を願った」だけの場合）は不可。皇帝自ら危険な戦場に赴いて敵軍を迎撃するよう要請したという点を理解している必要があります。

※②は近衛兵を最前線に送る進言をしたことに触れていれば加点。

▼「近衛兵」に触れていない場合は不可。皇帝の身辺警護を任務とする劉錫・楊沂中の軍は、当然、皇帝とともに最も安全な場所に配備されるはずですが、この軍を（皇帝とともに）最前線に送るので、「大胆」と評されていることを理解している必要があります。なお「近衛兵」については「皇帝の身辺警護の兵」などと表現してあってもよい（「劉錫・楊沂中」のみは不可）。